第２回まちづくり市民意見交換会　開催結果

1. 開催目的

第７次総合計画策定に向け、計画の策定状況を説明し、将来都市像「暮らしやすく、希望あふれるまち　上越」の実現に向けて必要な取組や市民一人一人ができることについて意見交換を行い、計画に反映することを目的とする。

2. 内　容

・市からの話題提供：上越市の現状とこれからのまちづくりについて
・４人程度のグループに分かれ以下２点について意見交換を行った。
①将来都市像の実現に向けて必要な取組は何か。
②将来都市像の実現に向けて自分ができることは何か。

3. 会場別の開催状況（参加者数：44 人）

日　時	会　場	参加者数
８月 ５ 日（金）18：30～20：00	市民プラザ　第３会議室	5
８月 ６ 日（土）15：00～16：30	市民プラザ　第２会議室	10
８月 ８ 日（月）18：30～20：00	浦川原コミュニティプラザ　市民ホール	10
８月 ９ 日（火）18：30～20：00	板倉コミュニティプラザ　市民ホール	13
８月 10 日（水）18：30～20：00	ユートピアくびき希望館　第３会議室	6
合　計		44

※参加者の年代層：30 代～80 代、そのうち 30 代以下が全体の 9%であった。

８月６日（土）市民プラザ会場での様子

4. ウェブでの意見募集（意見者数：44 人）

７月 25 日(月)～８月 15 日(月)まで、市ホームページにて市民意見交換会と同様に①②の意見を伺っている。

※意見者の年代層：20 代～70 代、そのうち 30 代以下が全体の 77%であった。

5. 主な意見

①将来都市像の実現に向けて必要な取組は何か。

第７次総合計画（案）全体について
・担い手が不足しており、「ひとづくり」を基本理念に据えることは共感できる（40 代） ・全体的に「希望」を感じることができ、前向きでよいと感じる（40 代） ・市民一人一人を大切にして、幅広い年代に配慮されていて、誰も取り残さないという意思が伝わりよいと感じる（30 代） ・分野が広く、多岐に渡るため、総花的で分かりづらい（50 代） ・観光や農業について協力したい思いはあるが、どう関わっていいのか分からない。計画を読んで市民が関われることを示してもらえると嬉しい（60 代）
支え合い、生き生きと暮らせるまち
・有償ボランティアの活動を周知する（40 代） ・老人クラブへの加入を推進する（60 代） ・健康年齢を伸ばす取組として、お年寄りの交流機会を創出する（50 代） ・高齢者の通院サポートでポイントが貯まる等、支え合いを促す仕組みを作る（70 代） ・一人親を孤立させないため、横のつながりや悩みが相談できる場を整える（70 代） ・市民一人一人が得意とする能力を活かす取組として、人材バンクを整備し、コーディネーターを設置する（50 代）
安心安全、快適で開かれたまち
・市内各方面にアクセスできるように交通網を整える（60 代） ・上越市の玄関口となる上越妙高駅などの拠点の魅力を高める（40 代） ・中山間地の荒廃は平野部の災害にもつながる。国土保全を意識で中山間地域を守る（80 代） ・防犯面からも空き家対策を進める（60 代） ・公園に年配者の健康増進に利用できる器具を設置する（70 代）
誰もが活躍できるまち
・住民自治の基本となる町内会活動を活発化する（60 代） ・今日の場のように市民が、話し合うことができる機会をつくる（40 代） ・多様性を認めてもらえるような社会にする（40 代） ・子ども成長し大人になり、市外に転出しても地元に愛着を感じられるように、地域の大人たちが子どもたちの味方となる（20 代） ・若者や学生が集まって歓談できる場、挑戦できる場をつくる（20 代） ・ＵＩＪターンの移住者だけではなく、地元に残り働いている若者への支援体制を整える（20 代）

魅力と活力があふれるまち
・就農者を増やし、食育や地産地消を推進するために農家を支援する（40 代） ・豊かな自然の保全に寄与する林業の仕事を早くから子どもに知ってもらう（30 代） ・行政が主となり、就職前の若者世代に市内企業をＰＲする（20 代） ・学校給食において、地産地消を進めるとともに、有機野菜を中心に調理する（40 代） ・女性が起業、創業しやすい環境を整える（30 代） ・仕事で得られた技術の向上や自信が地域社会の貢献に繋がるため、地域の職人や事業所とのマッチングを推進する（60 代） ・若者に魅力的な大企業、大規模な商業施設を誘致する（30 代） ・合併前の旧市町村を基礎とした地区にこだわらず、市全体で交流できる取組を進める（30 代） ・地産地消を促すため、地域通貨を導入する（40 代）
次代を担うひとを育むまち
・市民が気軽に相談できるよう公民館の機能を強化する（50 代） ・子育て世帯向けの様々な情報を集約し、ＳＮＳや市ＨＰ等で分かりやすく発信する（30 代） ・児童向けの屋外施設に日陰となる場所や休憩できるスペースを整える（30 代） ・幼少期の経験が上越に戻ってくるきっかけとなるため、子どもが様々な体験ができるよう支援する（70 代） ・「ママのための～」という表現をやめるなど、男性が子育てに関わることができるような取組を進める（30 代） ・メディアやＳＮＳを使いこなすことは、人との関わり方を学ぶことにもつながるため、まずは親世代が学ぶ場をつくる（60 代） ・子どものころからまちづくりを意識する機会を設ける（40 代） ・全世代が楽しくスポーツすることを推進する（30 代）
その他、行財政など
・行政若手職員が学校に赴き、児童・学生と意見交換を実施する（30 代） ・行政が抱える課題を公表し、ビジネスチャンスを提供する（30 代） ・行政から地域に飛び込んで、市民から話を聞く機会をもっと設ける（50 代） ・自分の限られた時間を地域のために少しでも使ってもらう（40 代） ・若者世代で第 7 次総合計画を加速化する官民一体のチームをつくる（30 代）

②将来都市像の実現に向けて自分ができることは何か。

・自分の健康を守るため、健康診断を受け、元気に働き、税金を納める（40 代）
・炊き出しなど、若い世代が防災訓練に参加してもらえる取組を検討する（60 代）
・災害に備え、避難場所が同じ人は、日常から声掛けし、つながりを作っておく（70 代）
・マイボトルの持参を心がけ、ゴミ減量に協力する（50 代）
・一番身近な町内会活動を自分事と捉え参加する（60 代）
・地域のまとまりを保つため、楽しいイベントは大変でも続けたい（70 代）
・地域のイベントに積極的に参加する（20 代）
・一人一人がまちづくりのプレイヤーであるため、他人任せにせず、協力する（70 代）
・草刈りや除雪など、見返りを求めない日常的な助け合いを行う（80 代）
・地元愛のある人を大切にする（40 代）
・多様性を認め、人の意見を聞いて受け入れ、自分の意見を伝えられるようになりたい（40 代）
・みんなで話し合う機会を作ることが大切であり、多くの人を集めるため、友人にも声がけする（30 代）
・地産地消を意識し、地域のお店を使い、売り上げに貢献する（30 代）
・上越市のことを知ろうとする気持ちをもつ（20 代）
・通学通勤先や居住区以外の市内の地区を回って、上越を知る、学ぶ、考える（20 代）
・地域を知って「こうなったらいいな」と思うことを蓄積し、1 回でもやってみる（30 代）
・意見交換への参加によって、「自分にもなにかできることがあるはず」と活力を得ることができたことから、今後も話し合いの場に参加したい（40 代）
・自分の移住生活を広く発信し、より多くの移住者を呼び込みたい（30 代）
・ＳＮＳで上越をアピールし、ワクワクするまちを作りたい（30 代）
・ビジネスパートナーに仕事で上越に来てもらう機会を増やす（40 代）
・仕事でも地域課題の解決に携わる視点、意識をもつ（60 代）
・自分の得意なことを活かして地域で困っている人を助けるほか、次の人材を育て、助け合いたい（60 代）
・上越市の農産物を自分から積極的に発信したい（60 代）
・大人がリーダーシップをとって、子どもを地域の交流に巻き込む（60 代）
・当市についてのネガティブな発言をむやみに子どもや他人に話さない（30 代）
・地域全体で子どもたちを見守るとともに、外に出たら挨拶や声掛けをする（30 代）
・廃校活用を他市事例も参考にしながら地域で話し合い、地域で楽しめる場所を作る（40 代）
・市民自身が楽しめる場所として、アートや音楽といった文化を育てる（70 代）